

「骨太人生をめざそう」

女子栄養大学 栄養生理学研究室 上西 一弘



はじめに

人生 86 年（日本人女性の平均寿命です）、健康で長生きしたいものです。私たちの「骨」は加齢とともにその密度が減少していきますが、願わくば最後までしっかりと身

体を支えてほしいものです。「骨太人生」を目指すためにはどのようなことに気をつければよいのか、少しでも皆様の骨が健康であり続けますように、ライフスタイルのアドバイスをさせていただければと思います。

體

この漢字は「からだ」と読みます。私たちの身体は本来、骨が豊かであるということを表しているのかもしれませんが。この反対の状態、すなわち骨が豊かではない状態が「骨粗鬆症」です。文字どおり、「骨」が「粗」く、「鬆（す）」が入ったようになってしまう病気です。骨粗鬆症自体は痛くも痒くもない病気ですが、これが原因で骨折が多くなってしまいます。骨折が原因で寝たきりになってしまうケースも多いのです。

カルシウムと骨の働き

まずカルシウムと骨の働きについて考えてみましょう。カルシウムは骨を作る重要な栄養素ですが、それ以上に心臓の拍動、筋肉の収縮など、身体のさまざまな機能を調節する働きがあります。

食事で摂取したカルシウムの消化管からの吸収率は

25% 程度です。成長期には高く、加齢とともに減少します。この吸収率、牛乳では約 40% と高いことが知られています。小魚は 33%、野菜は 19% というデータもあります。でも、私たちはこれらの食品を単独で食べるわけではありません。いろいろな食材を食事として摂取すれば、カルシウムの吸収率も混ざってしまいます。この平均値が 25% 程度ということです。吸収されたカルシウムが骨に蓄積されるかどうかも重要です。骨は道路工事と同じように削っては埋めなおすという作業を毎日行っています。削る量が多いと骨量は減少します。

骨が強くなるためには、骨に刺激を与える必要があります。運動はその刺激となります。歩く、座った姿勢から立ち上がるなども骨への刺激となります。身体を動かすことがカルシウムの骨への蓄積に重要となります。

骨は私たちの身体を支えるとともに、筋肉とともに運動に関与しています。また頭や胸など重要な臓器を保護する働きもあります。しかし、最も重要な働きは、「カルシウムの貯蔵庫である」ということです。先に紹介したように、カルシウムがなければ私たちは生きていくことができません。私たちの祖先は海で生活をしていました。海水にはカルシウムがたくさんありますから、不足する心配はありません。しかし、陸上に上がると周りは空気です。カルシウムはありません。必要なカルシウムをどこかにたくわえておく必要があります。そこで選ばれたのが骨といえます。

カルシウムは毎日少しずつ尿中に排泄されていきます。摂取量が少ないとバランスがマイナスになります。その場合には貯金、すなわち骨のカルシウムを使うこととなります。そうして骨からカルシウムがたくさん出てしまった状態が骨粗鬆症といえます。骨粗鬆症になることよりも、身体の機能を維持することが大切ということです。

成長期における骨量獲得、骨太人生を目指そう

図1は骨の加齢変化を示したものです。骨は成長期に大きさ、密度ともに増加し、18歳から30歳代にかけて最大の値となります。この値のことを「最大骨量」ともいいます。これは言い換えると、「骨の貯金」といえます。貯金は多ければ多いほど、老後も安心ですね。骨も同じです。若い時期にできるだけ骨を強くしておくことが、最も重要です。

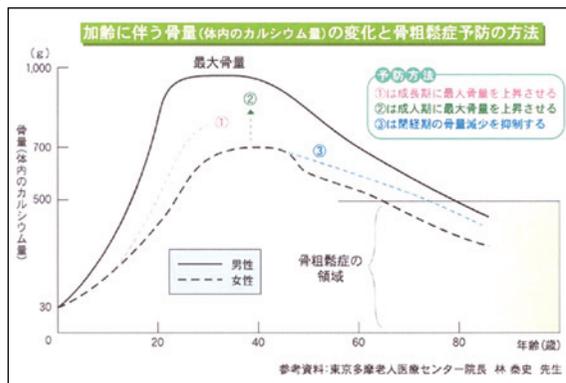


図1 加齢に伴う骨量(体内のカルシウム量)の変化と骨粗鬆症の予防の方法

成人期以降、骨は徐々に減少していきます。特に女性は閉経期に骨量は一段と減少します。これはそれまで骨を

守ってくれていた、女性ホルモンが減少してしまうからです。骨量がある値、すなわち成人期の平均の70%を下回ると、「骨粗鬆症」となります。

骨太人生のための3つのポイント

将来、骨粗鬆症で骨折しないためには、次の3つのポイントがあります。まずは、成長期に骨量を多くすること。これはバランスの良い食事と十分なカルシウム摂取、適度な運動、規則正しい睡眠が重要となります。

次に、女性の場合には妊娠・授乳期が骨量を増やすチャンスとなります。妊娠・授乳自体は母体の骨量を減らしてしましますが、授乳終了後に母体の骨量は急速に回復することがわかってきました。この時期に十分なカルシウムを摂取すれば骨量を妊娠前よりも増やすことが可能です。

閉経期には骨量が大きく減少しますが、できるだけその減少を抑えることが大切です。ここでもバランスの良い食事と十分なカルシウム摂取、適度な運動がキーワードです。

高齢になってから、骨量を増やすことは食事や運動では困難です。できるだけ若い時期に骨量を測定してみて、自分の骨の状態を知っておくことも効果的です。機会があれば測定してみてください。

もうひとつのビブリオバトル 開催前・後の広報活動

文教大学教育学部 平 正人

ビブリオバトルの熱気は、大学の研究室を飛び出して、いまや日本中を包みこもうとしている。埼玉県大学短期大学図書館協議会は、2013年12月10日に開催した第25回研修会(淑徳大学みずほ台キャンパス)において、研究テーマをビブリオバトルに設定し、この知的書評ゲームの本格的な導入に向けて新たな一歩を踏み出した。本稿は、この研修会におい



て筆者が依頼された報告の概要である。

報告タイトルに用いた「もうひとつのビブリオバトル」の意味を説明することからはじめたい。ビブリオバトル普及委員会理事・副代表の吉野氏は、教育機関におけるビブリオバトルの普及に大きな期待を寄せている。「これは個人的な意見ですが、とくに授業の自由度が高く、学生の自由時間も比較的多い大学で、ぜひ普及してほしいと考えています。まだ、普及は始まったばかりですが、大学生の読書推進、プレゼンテーション能力向上、就職活動対策、など様々な切り口で効果が期待できます」(ビブリオバトル普及委員会編『ビブリオバトル入門～本を通して人を知る・人を通して本を知る～』吉野英知、須藤英紹、大谷裕、

谷口忠大監修、情報科学技術協会、2013年、26頁)。大学にビブリオバトルを導入するうえで、学生の読書推進やプレゼンテーション能力向上をその目的とするならば、何よりもまず継続的な開催が求められる。そのためにはビブリオバトルの認知度を高める広報活動を精力的に展開しなければならない。今回の報告は開催前・後の広報活動を「もうひとつのビブリオバトル」と称して、それらの先行事例を紹介することを目的とした。

先行事例として紹介した諸団体は次の通りである。まず、2009年に第1回を開催してから計30回以上開催している大阪大学学生団体《Scienthrough》、次に、毎月1回土曜日の開催を基本として2012年10月までに計21回開催している《奈良県立図書館情報館》、さらに、2010年11月以降毎月1回のペース(第3水曜日)で2012年12月までに計26回開催している《天満橋ビブリオバトル》である。これらの団体が展開する広報活動にはさまざまな創意工夫がみられ、ビブリオバトルの継続的な開催に対する意識の高さを共通して読みとることができる。そして最後に紹介したのが《ビブリオバトル in 文教》である。開催実績は2010年から2013年12月までに計6回と少ないが、それぞれの開催にあわせて広報活動を積極的に展開した。開催日の約2週間前から《開催告知ポスター》(【写真1】)を学生食堂・図書館・掲示板に貼り出し、またTwitterやfacebookなどで呼びかけた。また《ビブリオバトル・パネル》や《ビブリオポップ》を学生食堂・図書館に展示し、ビブリオバトルの紹介をおこなった(【写真2】)。これらの展示物は学生に制作を依頼することで、制作



【写真1】《開催告知ポスター》
[2012年秋学期]

者本人のみならず周囲の学生の関心を高める効果が得られた。開催後には《特別展ビブリオバトル in 文教》を図書館で開催し、決勝戦にノミネートされた本とバトルの紹介文を1枚のパネル(A3判)にまとめて展示した(【写真3】)。また書籍部に《ビブリオバトル特設コーナー》を設置し、図書館で展示するパネルの小型版(A5判)と本を配置・販売した(【写真4】)。さらに決勝戦に進出したバトルの紹介文に予選で敗退したバトルの紹介文を加えて収録した小冊子『ビブリオバトル in 文教』(B5判、72頁)



【写真2】《ビブリオバトル・パネル》(左)・《ビブリオポップ》(下) [2013年秋学期]



を印刷・発行して無料で配布した(約200部)(【写真5】)。

このような開催前・後の広報活動には時間と労力が求められる。したがって個人的な努力に依存することなく、組織的な運営母体の設置、そして学生および教員との連携が必要不可欠である。大学におけるビブリオバトルのさらなる普及、より一層の定着を促進するためには、ビブリオバトルの開催方式はもとより、こうした広報活動も欠かすことのできない重要な要素のひとつであり、これもまたビブリオバトルの醍醐味のひとつではなからうか。埼玉に吹き始めたビブリオバトルの風が今後どのような成果をもたらしてくれるのか、いまから期待してやまない。



【写真3】《特別展ビブリオバトル in 文教》 [2012年秋学期]



【写真4】《ビブリオバトル特設コーナー》 [2011年春・秋学期]



【写真5】『ビブリオバトル in 文教』 [2011年春・秋学期]

事例報告

「城西大学水田記念図書館ビブリオバトル」

城西大学水田記念図書館 関口 千登世

1. 2011～2013年ビブリオバトル

当館がビブリオバトルに取り組むきっかけとなったのは、2011年6月に開催された「紀伊國屋主催大学生大会」への参加であった。2名の希望者から発表の原稿と面談により、現代政策学部3年生(当時、男子)を本学代表者として選出した。その後、同年10月には、東京都主催の「ビブリオバトル首都決戦2011」の地区予選会を図書館グループ学習室(30席)において開催した。この予選会が当館においての初開催である。予選会開催には、“4名以上の発表者”“10名以上の観覧者(投票者)”“大会本部が決めた期日までに開催する”などの必須条件をクリアしなければならない。本学においてはまだビブリオバトルが周知されていないことも考慮し、広報に力を入れた。当日は経済学部、経営学部、現代政策学部の男子学生4名が出場し、教職員、学生の20名が観覧者として参加した。出場した学生たちは学部も学年も違うが、発表後は緊張が解けたこともあり、本好き同士で会話が弾んだ。チャンプには「紀伊國屋主催大学生大会」に出場した学生が選ばれ、彼にとっては再チャレンジとなる10月秋葉原で開催の首都決戦予選会に出場した。

2012年は前年と同様に「ビブリオバトル首都決戦2012」の地区予選会を9月に開催した。会場を前年よりも大きい視聴覚室(90席)に移し、出場者5名(男子3名、女子2名)、観覧者も30名と増えた。この予選会では有志学生が司会を担当し、観覧には近隣の一般利用者とSALA加盟館の図書館員も参加された。また、予選会後には交流会を設け、学生、教職員、一般利用者が和やかな雰囲気の中で意見を交わした。

2013年も同様に「ビブリオバトル首都決戦2013」地区予選会を9月に開催し、出場学生23名、観覧者90名と過去最高の人数となった。出場者が大幅に増えたことを喜ぶとともに、学生たちが授業に影響ないように組み合わせを考えた結果、2会場で同時に2試合を開催し、4冊のチャンプ本を決めることにした。この予選会では、図書館で学習支援をしている図書館学生アドバイザーのメンバーと有志学生が司会と投票集計を担当するなど、学生が大きく運営にかかわった。また、観覧者として当館と相互協力提携を結んでいる地域の公共図書館員も参加されるなど、一歩ずつではあるが新しい展開が得られた。

2. 大学祭での開催

同年11月3日の大学祭では、地区予選会のチャンプ、

準チャンプによる学内決戦大会を開催した。この大会は図書館学生アドバイザーが主催者となり、ポスター作りや協力してくれる学生を集めるなど、大会の成功に向けて積極的に行動した。当日は屋外のメインステージ

で多くの一般者が観覧する中、副学長ほか教員からも講評をいただき、出場した学生と学生アドバイザーの絆も深まった。



3. ビブリオバトルの効果

2011年の「紀伊國屋主催大学生大会」に出場した学生の所属ゼミでは、紹介した図書『海と毒薬』を法学授業で取り上げ、実在の事件に関する資料を調査するなど、法学的視点から文学をひもとく新しい授業展開がなされた。¹⁾予選会でチャンプになった1年生の担当教員からは、「ゼミにおいてプレゼンテーションの技法やパフォーマンスについて学生たちが活発に議論を交わした。ビブリオバトルが読書力育成や学習習慣の契機となり、初年次教育に大きな効果があつた」との報告を受けた。また、本学広報誌²⁾や日本薬学図書館協議会発行の『薬学図書館』に記事を掲載し³⁾図書館による教育支援を学内外に広報することができた。

本学のビブリオバトルへの取り組みは、まだ始まったばかりである。今後も教員や事務局と連携し、学生が主体的に活躍できる支援を続けていきたい。

参照 URL

- 1) 憲法ゼミで遠藤周作『海と毒薬』を読む(オンライン)
http://libir.josai.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000002repository_JOS-18819001-0503(参照2014-2-21)
- 2) 学びに生きる、熱き挑戦『城西:地域と大学を結ぶ広報誌』No.4, 2013.2. p.6(オンライン)
http://libir.josai.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000002repository_JOS-josai_04(参照2014-02-21)
- 3) 「ビブリオバトル首都決戦2011予選会 in 城西」を開催して(オンライン)
http://libir.josai.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000002repository_JOS-YAKUTO57-1-p67(参照2014-2-21)

Open Library Weeks: OLW 実施報告

鈴木正紀 (文教大学越谷図書館)

1. 実施に至るまでの経過

Open Library Weeks (以下、“OLW”) は、今年度 (2013 年度) 初めて試みた企画である。どういものかといえば、「ある図書館がテーマを決めて、そのテーマに関心を持つ図書館員が相互に訪問する研修イベント」ということができるだろうか。具体的には例えば A という図書館が「魅力あるウェブサイトの作成」というテーマを掲げると(このとき、A 図書館を“OPEN 館”という)、それに興味・関心をもつ SALA 加盟機関の図書館員は、A 図書館が指定した日時に集まり、そのテーマについて議論したり情報交換を行う。同様に B という図書館が別のテーマで OPEN 館として参加を呼びかけ、A 図書館の場合と同様の活動を行う。そうした活動の総体が事業としての OLW となる。

このアイデアそのものは幹事会後の懇親会で出されたということが幹事会内では定説となっているが、総会で承認されたのち、幹事会で実施について検討を行い、以下のスケジュールで動いた。

2013/06/06	SALA 総会で企画を提案、承認
2013/07/29	sala_mailing で OPEN 館としての立候補及びテーマ推薦を要請
2013/10/22	城西大学が実施
2013/11/05	跡見学園女子大学が実施
2013/11/12、20	文教大学が実施 (当初、10/16 を予定していたが台風による悪天候のため、この日の実施となった)
2013/11/25	SALA 第 2 回幹事会で実施報告
2013/12/10	SALA 研修会で報告

2. 実施の概要

以下、各 OPEN 館の実施した内容について概略を紹介する。

(1) 城西大学水田記念図書館

- (ア) テーマ: オンラインを利用した広報活動ーホームページ、Twitter、SNS を中心に
- (イ) 企画概要: ホームページをはじめとした広報ツール (Twitter、SNS、ブログなど) をテーマに取り上げます。デジタルネイティブ世代の利用者 (学生) へ広報するにあたって、我々もこうしたツールについて知識を深め、柔軟に使いこなし、また持続的に管理する必要があるでしょう。/Open 日には、当館におけるホームページの管理運営、採用しているツール (Twitter、ブログ、館内デジタルサイネージ) 運用等の事例報告をした後、ディスカッションを行

います。またお時間ある方へ、館内ツアーを行います。(参加案内書より抜粋。以下同じ。)

- (ウ) 参加者数: 8 館 8 名 (および当館 7 名。計 15 名)
事前アンケート回答館: 15 館

(2) 跡見学園女子大学新座図書館

- (ア) テーマ: 図書館の学習支援体制 (ラーニングコモンズ)
- (イ) 企画概要: 跡見学園女子大学新座図書館では、小規模ながら本年 10 月よりラーニングコモンズが誕生します。まずは 1 部屋からのスタートです。その後も既存のスペースを転換利用しながら、徐々にラーニングコモンズ空間を広げていく計画です。/オープン館として、皆さまにご披露できるほど立派な施設ではありませんが、当日は、本学のラーニングコモンズ計画の進展をご紹介します、今後ラーニングコモンズへの転換が予定されているスペースを館内ツアーの中に組み込んでご案内いたします。/この機会にラーニングコモンズは学習支援においてどのような工夫ができるのか、先行して取り組んでいる図書館、また本学と同様にラーニングコモンズを模索している図書館の皆さまと考えていきたいと思っております。
- (ウ) 参加者数: 8 館 11 名 (および当館 2 名。計 13 名)

(3) 文教大学越谷図書館

- (ア) テーマ: 大学図書館の企画展示ー文教大学越谷図書館の事例ー
- (イ) 概要: 文教大学越谷図書館では、2008 年度から、学生の読書活動を推進させることを目的に、さまざまなテーマで資料の企画展示を行っています。「オリンピック」「源氏物語千年紀」「特殊コレクション」「新入生向けのお役立ち本」「卒論の書き方」などのテーマで蔵書を紹介し、利用につなげるよう PR しています。/今年の夏休み期間には、「教職員おススメの 1 冊」と題して、先生方を中心に学生におすすめしたい本を大募集したところ、最終的に教員 35 名・職員 8 名から 146 冊ものおすすめ本が集まりました。学生は、教わっている先生の顔写真とおすすめ文を発見すると、クスクス笑いながら楽しそうに借りていきます。当日は、今回の展示を実現させるまでのプロセスをご紹介します、実際に展示されているものをご覧いただけます。さらに今回の展示を今後どう生かしていくかについても展望をお伝えしたいと考えています。図書館のスタッフ

も想定外?の大好評企画、展示期間をSALAオープンライブラリーのために(!)大幅に延長していますので、ぜひともご来場の上、ご高覧ください。

(ウ) 参加者数:11月12日14名(10機関)、11月20日:3名(1機関)

3. 評価

企画段階ではまず、OPEN館として手を挙げてくれる図書館がどれくらいあるのか、ということが心配された。結局、いずれも幹事館ではあるが、3館の立候補があったということで、最低限の開催規模は確保できたのではないかと考えている。テーマも、広報、ラーニングコモンズ、展示とバラエティに富み、それぞれの企画に関心のあるSALA加盟機関のスタッフが参加できたと思う。そこでは設定さ

れたテーマに関する理解及び情報交換、また人的交流の誕生といった成果があったと推察できる。

次年度、事業として継続するかについては、まずは幹事会での今後の議論によることになるが、実施の前提としては、多くの図書館がOPEN館として手を挙げるか、あるいは行ってみたい図書館を推薦するかしてOPEN館をできるだけを多く立ち上げることが必要である。大きなテーマでなくともよい。身近なちょっとした工夫について他者の評価を聞いてみたい、そんなことから始めればよいのではないだろうか。

SALAの設立は、加盟機関相互の交流の活性化がその大きなモチーフとなっていたはずだ。このOLWはそれを体現するものとしての性格を強く持っていると思う。次年度はより大きな規模で開催されることを望んでいる。

図書館と県民のつどい2013報告

「大学図書館のお宝お見せします」

2013年12月1日(日)、埼玉県図書館協会・埼玉県教育委員会他、埼玉県の学校図書館団体主催の「図書館と県民のつどい2013」が桶川市民ホール・さいたま文学館にて開催された。SALA加盟館からは10機関が参加。当日はご来場いただいた多くの方々にご覧いただいた。

●埼玉大学

「河川の国～荒川を中心に～」

本学では、身近にある河川との関わりを深め、“水問題について考える”をテーマに埼玉県の母なる川“荒川”の資料を中心に河川に関連する資料を展示した。会場では、クイズ形式の設問を用意し、来場者とスタッフのコミュニケーションを図った。来場者からは、本学の教員や附属学校の教諭が作成に協力した小学生向け教材資料や現在県が行っている“川の再生”の取り組みについてご質問をいただいた。

また、本学が県内公共図書館と行っている「埼玉県内図書館ネットワーク」についてもご紹介した。

●跡見学園女子大学

「八重と花蹊～二人のハンサムウーマン～」

本学の学祖跡見花蹊とNHK大河ドラマで話題となった新島八重とは、ほぼ同時代(幕末、明治)を力強く生きた女性である。跡見花蹊は東京神田中猿楽町で跡見女学校を開学し、女性の生きるための力になる学問を教え、特に茶道を学ぶことで人格教育、書画の知識、お客様のおもてなしなどを総合的に学ぶことができると考えた。八重も茶道を重視し、女子教育に応用した共通点がある。

二人が生きた時代を年表形式で比較し、大切にされた女性のあり方、生き方を、二人が残した言葉やエピソードで構成した展示を多くの方々に見ていただいた。

●国立女性教育会館

「柳町コレクション at NWECC

—自伝・伝記にみる女性の活躍—

国立女性教育会館女性教育情報センターは、男女共同参画社会に関する専門図書館である。今回出展した柳町コレクションは、女性教育情報センターが所蔵しているコレクションの一つで、故柳町知彌氏が女性の社会的自立をテーマとして収集した昭和期の女性の署名本のコレクションである。社会で活躍している女性の自伝を読むことで、ひとりひとりの個性と能力を發揮する「男女共同参画社会」を考え、広く女性のエンパワメントにつながることを期待した。

また、今回、本の展示と併せて、展示で取り上げた著者の新聞記事をパネル展示した。

●芝浦工業大学

「つなぐ未来の橋」

本学図書館は「橋」をテーマにし、関連図書と学生の作品であるアーチ橋とのコラボ展示を行った。

これは本学学生の立ち上げた「A4コピー用紙で橋を作れ!」プロジェクトを図書館が支援したものである。“橋の構造”“紙”“多面体”というキーワードから図書館が学生に資料を提供し、プロジェクトの支援に取り組んだ。

当日は紙で作ったアーチ橋について多くの反響をいただいた。強度の仕組みについて、又はこの技術の応用につ

いてたくさんの質問が飛び交い、学生の作品を通して、工学に対するみなさまの多大な関心を感じた。

●城西大学

「Cool Japan 浮世絵の魅力ー外国人から見た日本の美ー」

今回の展示では、海外で出版された浮世絵関連の資料や画集と共に、本学水田美術館コレクションの東洲斎写楽と喜多川歌麿作品の複製画7点を展示した。この複製画は、江戸時代の技法「順序摺り」の工程を経たもので、当時の摺りたての色彩や風合いを楽しむことができ、現代の彫師、摺師の職人技が窺える作品でもある。会場では資料の見学に合わせて体験コーナーを設け、東洲斎写楽の「四代目岩井半四郎の乳人重の井」の順序摺体験をしていただいた。西洋美術にも影響を与えた浮世絵の魅力を表示と体験を通して感じていただける場となった。

●女子栄養大学

「病人を作らない食事ー創立80年ー」

建学の精神「食により人間の健康の維持・改善を図る」をキーワードに、創設の原点である「脚気」の研究、胚芽米、ビタミンB1を軸に展示を構成した。

栄養学の黎明期にあたる鈴木梅太郎著『ビタミン』、島蘭順次郎著『脚気』から近年までの資料と普及活動の一端を担った本学出版部刊「四群点数法のすべて」などを紹介した。また、ビタミンB1の分子模型や「計量カップ・スプーン」、胚芽米の展示を行った。

多くの来場者の様子から、健康に対する関心の大きさを改めて窺うことができた。

●聖学院大学

「来日190周年記念!シーボルト『日本』」

1823年(文政6年)、シーボルトが長崎にオランダ商館付きの医官として来日してから190年になるのを記念して『日本』を展示した。彼の研究は、日本及び周辺地域の地理・歴史・民族・言語・社会・宗教・文化や動植物に至るまで多岐にわたり、外国での日本研究の礎となったものである。約6年間に調査・収集したそれぞれの分野での資料が細密画として描かれている55cm×37cmの大きな紙面は、来場者の注目を集めた。

あわせて新しい試みとしてiPad mini等を利用した映像による書評<Book Review>の紹介を行い、読書の喚起を訴えた。

●東洋大学

「『存在の謎に挑む哲学者』～明治期日本の心の近代化につとめた井上円了～」

井上円了は明治期屈指の哲学者・教育者で、この時代

民衆にあった不思議現象を合理的に説明し、迷信を解き放つことで、日本の心の近代化につとめた人物であった。

円了はそれらの資料収集につとめ研究を行い、その成果が日本最初の科学的な妖怪研究へと発展し、「妖怪学」として実を結ぶことになった。

今回の展示では、自らを「不思議庵主人」と称して、不思議な存在に「妖怪」の名を与えた円了の生涯や著作の一部を紹介することにより、その足跡や果たした役割を体感していただいた。

●文教大学

「教科書コレクションー往来物からWeb教科書までー」

教員養成に60年の歴史をもつ文教大学には、埼玉県下有数の教科書コレクションがあり、活発に利用されている。今回は、『庭訓往来』『萬國往来』といった往来物のほか、戦前・戦後から現代にいたるまでの小学校教科書、2012年度に改訂・発行されたばかりの高等学校教科書、養護学校教科書、近未来の「デジタル教科書」「Web教科書」など全190点を展示した。「デジタル教科書」「Web教科書」は教育界最先端の話題であり、本学教育研究所所長・今田晃一教授らが研究を行っている。来場された方々にはiPadで自由に操作を楽しんでいただいた。

●ものづくり大学

「『ピーター・F・ドラッカー&上田惇生文庫』開設のご案内」

ものづくり大学では、2013年11月にピーター・F・ドラッカー氏の著書が日本語で読める63冊の書籍による「ピーター・F・ドラッカー&上田惇生文庫」を、上田惇生名誉教授の寄贈により開設した。

今回、その本と2013年11月3日に行われた市民特別公開講座「ドラッカーとその世界」で上田惇生名誉教授、岩崎夏海氏(「もしドラ」著者)、井坂康志氏(ドラッカー学会事務局長)の講演概要を紹介し、映像を流した。

また、製造学科の松本研究室による岩槻商業高校との高大連携プロジェクトのパネル紹介と、コーヒーカップモデル等を3Dプリンターで実演した。



●第26回総会(2013年6月6日)

第26回総会を、女子栄養大学において開催した。
平成24年度事業報告などの報告の後、(1)平成25年度事業計画、(2)平成25年度予算、などが協議され、いずれの案件も原案通り承認された。総会后、女子栄養大学教授である上西一弘氏による記念講演「骨太人生を目指そう」が行われた(内容については別掲)。参加数は26機関39名(他、委任状提出21機関)だった。終了後、意見交換会を行った。

●図書館と県民のつどい埼玉2013(2013年12月1日)

さいたま文学館・桶川市民ホールを会場として開催した。SALAは恒例の「大学図書館のお宝、お見せします!」のタイトルで合同展示を行なった(展示参加機関は10機関)。展示内容については別掲。

●研修会(2013年12月10日)

第25回研修会を「ピブリオバトル」をテーマとして、淑徳大学埼玉キャンパスで開催した。39名の参加があった(講師含む)。各氏の講演内容については別掲。終了後、講師を交え意見交換会を開催した。

●Open Library Weeks(2013年10～11月)

加盟する図書館が特定のテーマ設定を掲げてOPEN館となり、参加者を募って実施する相互訪問研修事業。2013年度は3館がOPEN館となり実施をした(詳細については別掲)。

●会報発行

SALA会報第22号を3月に発行した。

●共同購入事業

物品の共同購入事業について、現在8社と取引を行っている。

●埼玉県地域共同リポジトリSUCRAの運用

現在、12機関が参加をして運用されている。より安定的な運用環境を実現するための検討を続けている。

●幹事会

幹事会は総会で選出された幹事館で構成し(14機関)、当会の運営にあたっている。平成25年度は4回の幹事会を開催した(予定を含む)。役割分担については、当年度の事業課題(定例的なもの/当年度に特有のもの)を設定し、それらに対して幹事が分担して当たるという形をとっている。紙幅の都合で、分担の詳細は割愛する。

なお、幹事会メンバーは以下のとおりである。

代表幹事館：文教大学越谷図書館

幹事館：跡見学園女子大学新座図書館、国立女性教育会館女性教育情報センター、埼玉純真短期大学図書館、埼玉女子短期大学図書館、埼玉大学図書館、十文字学園女子大学図書・情報センター、淑徳大学みずほ台図書館、城西大学水田記念図書館、駿河台大学メディアセンター、聖学院大学総合図書館、大東文化大学60周年記念図書館、東洋大学附属図書館川越図書館、獨協大学図書館

なお、会計監査は埼玉学園大学情報メディアセンターが担当している。

 株式会社三省堂書店
北東京営業所

〒123-0872 足立区江北7-11-8
Tel 03-3896-7255 Fax 03-3896-6331

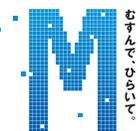
研究者・図書館・法人のお客様のためのオンラインストア

 紀伊國屋書店 BookWeb Pro
<https://pro.kinokuniya.co.jp>

紀伊國屋書店 さいたま営業所 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 7-3-16 ソア 5階 生命浦和ビル
Tel: (048)822-0775 Fax: (048)822-0765

Maruzen 学術機関向け電子書籍を配信!
 学術・研究機関のための
学術情報に特化した電子書籍をご提供する
丸善オリジナルのプラットフォームです。
<https://elib.maruzen.co.jp/>

丸善株式会社 学術情報ソリューション事業部 Maruzen eBook Library 担当
Tel: 03-6367-6008 e-mail: e-book@maruzen.co.jp
営業時間: 9:00~17:30 (土・日・祝日、年末年始を除く)

 むすんで、ひろいて。
埼玉をもっと元気に!!
望月印刷は埼玉を支えています。
 始動 絆アバニュー
印刷のごとなら、お気軽にお問い合わせ下さい。
複合印刷・マルチメディア
オンデマンド印刷・広告代理店
情報を最適なメディアで
望月印刷株式会社
〒338-0007 さいたま市中央区阿弥 5-8-36
TEL 048 (840) 2112 FAX 048 (840) 2121
<http://www.avenue.co.jp/>

会報 第22号 2014年3月31日発行

編集：埼玉女子短期大学図書館、獨協大学図書館

発行：埼玉県大学・短期大学図書館協議会 <http://www.sala.gr.jp/>

代表幹事館・事務局 〒343-8511 越谷市南荻島 3337

文教大学越谷図書館 ☎ 048-974-8811 内線 1704 FAX 048-974-8040

印刷：望月印刷株式会社 〒338-0007 さいたま市中央区阿弥 5-8-36 ☎ 048-840-2111 FAX 048-840-2121